

平成27年9月17日

能美市議会議長 米田敏勝 様

基地対策特別委員会

委員長 杉田 隆一

能美市議会基地対策特別委員会行政視察報告書

1. 期 間 平成27年7月2日（木）～3日（金）
2. 視察先 航空自衛隊松島基地（宮城県東松島市）
3. 参加者 委員長 杉田 隆一 副委員長 東 正幸
 委 員 倉元 正順 委 員 居村 清二
 委 員 森 善克 委 員 山本 悟
4. 随 行 議事調査課長 橋場 和彦
5. 説明員 ブルーインパルス2番機 1尉 吉田 翔
 基地対策班長防衛事務官 清水 浩一

6. 視察の概要

（1）施設概要

松島基地には航空自衛隊パイロットの養成部隊である第4航空団が配備されており、ブルーインパルスの本拠地として全国的に知られる。基地の総面積は363万㎡、2,700mの主要滑走路を備え、小松基地とほぼ同程度の規模である。基地にはF-2戦闘機、T-4練習機、救難救助機、救難捜索機が配備される。

東日本大震災では、基地全体が高さ2m以上の津波に襲われて冠水し、航空機28機が全て水没してしまう壊滅的な被害を受けるも、ブルーインパルスは芦屋基地（福岡県）で活動中だったため難を逃れていたが、基地機能が完全に喪失する苦い経験を味わっている。現在、1000名近い隊員が任務に精励している。

（2）活動状況

松島基地はF-2戦闘機によるパイロット養成部隊として戦闘操縦教育が行われている。小松基地のように実践部隊が配備されていないが、防空・通信・衛生など後方支援の業務が昼夜を分かたず行われている。そのほか、民間航空機や船舶（漁船など）の遭難事故があったときの捜索や救助、また、風水害による災害を受けた地域への救援に出勤し、患者や物資の空中輸送などの支援もおこなって

いる。この活動が実を結び、震災直後の支援活動では最前線機能を担った松島基地が大きな成果を上げている。

基地では震災被害の教訓を生かし、必要な部分の駐機場と格納庫を3m嵩上げる大がかりな復旧工事が順次進められているところであった。

(3) 所 感 ―震災と自治体の復興―

基地内の嵩上げ工事はまだ時間はかかるものの、2年という短期間のうちにブルーインパルスが帰還が実現した背景には、地元からの強い要望・後押しがあった。この時、多くの人たちが「きょうから復興が始まる」と胸中を熱くしたとされている。

自衛隊は、わが国の防衛を主な任務としながら、災害派遣、国際協力などその活動の場が多方面におよび、私たちの平和と安全安心な生活を守るためには欠かせない存在となっている。東日本大震災が発生した際には、自衛隊員自身が「被災者」であるにもかかわらず、住民の捜索活動や復旧活動に取り組む献身的な姿は多くの地域住民の共感を呼びその存在の大きさに改めて気づかされたところでもある。

また、近年の東アジアの緊張感から小松基地を発進するスクランブルの回数が増えてきているような状況下においては、航空機パイロットの育成は防衛上の急務であり、パイロットの養成部隊を擁する松島基地の重要性も増してきている。

引き続き、周辺自治体の我々と基地とが良好な関係を築いていくためには、在日米軍再編を期に訓練が移転された6基地の所在地及び周辺自治体議会による連絡協議会による連携や全国市議会議長会基地協議会の要望活動は地域住民の安全確保には必須となっているとともに、イベント時だけではなく、日常的な小松基地との交流や緊密な情報提供が図れる体制づくりに努めなければならない。

東日本大震災により東松島市は死者1109人、行方不明者25人という大きな被害を受けた。震災から4年が経過し、松島基地の再起が震災復興のシンボルとなって地域住民を支え、時には住民から熱い支援を受けるなど、現在進行形の共存関係に復興に向けた力強さを感じた視察であった。1日も早い復興を願うものである。

5. まとめ

航空自衛隊の任務は、日本領空へ領空侵犯する、あるいは可能性のある脅威の排除にある。

防衛省の発表によると領空侵犯の恐れがある航空機に対する緊急発進（スクランブル）は、平成23年度には総数で425回を数えるという。そのうちロシア機に対する発進回数が247回と最も多く、中国の156回が続く。中国は過去最多を記録した。

領空侵犯を匂わすような近隣諸国の行動は、日本との領土問題や政治経済等の軋轢と密接な関係にあることがうかがえる。このことは近年の国際情勢からするとますます拍車がかかってきたことは誰の目にも明らかである。

海に囲まれた日本にとってまさに空からの脅威は重大であり、航空自衛隊の防衛力がキーとなっている。即応性、機動性、柔軟性、持続性、多目的性を兼ね備えて初めて防衛力の真価が発揮される。浜松基地は自衛隊員を育成する教育のメッカとしてその原点になる基地である。

一方、航空自衛隊小松基地に隣接する当市では、騒音及び事故の危険性をはらんだ基地周辺の生活環境の改善に取り組む必要がある。航空機騒音に悩まされている市民感情を考慮し、飛行の安全確保と安心して暮らせる環境づくりをめざし、基地との良好な関係の中で今後とも周辺対策を推進していかなければならない。

今回の研修を通して、航空自衛隊浜松基地の重要な任務の一端を教示いただいた。昨今はアジア太平洋地域の安全保障環境や国際平和協力活動など自衛隊の地球規模での活動が期待される時代を迎えている。わが国の安全と繁栄確保をどのように実現していくのか、航空自衛隊小松基地に隣接する自治体議員として私たちも深い関心を持ち自治行政に資する必要がある。